

伝統的な衣生活からの消費者教育へのアプローチ

—中学校家庭科での実践事例—

佐々木和也・赤塚 朋子・星野めぐみ・門澤 裕美

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日

伝統的な衣生活からの消費者教育へのアプローチ[†]

—中学校家庭科での実践事例—

佐々木和也*・赤塚 朋子*・星野めぐみ**・門澤 裕美**

宇都宮大学教育学部*

宇都宮大学教育学部附属中学校**

衣生活に関する栃木県の伝統文化資産として、結城紬、真岡木綿、鹿沼麻（野州麻）、間々田紐、足利銘仙などがあり、三大天然繊維である絹・綿・麻の文化が継承されている。本研究では、これら伝統的な衣生活の視点から持続可能な消費を実現する消費者教育教材を開発し、各発達段階での実践を通して効果を検証することを目的としている。本論では中学校技術・家庭科の家庭科分野において、結城紬を切り口として伝統的な衣生活を体感しながら、エシカルファッションについて学ぶ授業実践を紹介する。

キーワード：衣服、伝統文化、消費者教育、持続可能性

1. 研究の背景

平成24年12月に施行された「消費者教育の推進に関する法律」において、消費者教育とは、消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育であり、消費者市民社会の構築を目指している。消費者市民社会とは、すべての消費者が、自分だけでなく周りの人々や、将来生まれる人々の状況、内外の社会経済情勢や地球環境までに思いを馳せて生活し、社会の発展と改善に積極的に参加する社会と定義されている。これは、消費者教育の変遷において、その先進国であるヨーロッパの影響を強く受け、「環境教育」「シティズンシップ教育」と合わせた概念をもつ“Consumer Citizenship Education”として発展し[1]、持続可能な社会の構築を前提とした自立した消費行動の要求に応えるものである。

岡野らの調査[1]によると、現行の家庭科指導要領に基づく小中学校の教科書において、「D 消費生活と環境」に関連する記述は10～15%程度あり、

今後の重要な領域である一方で、実習等に時間が取られて短時間になりがちでありとしている。さらに、養成課程で十分に学んでいないため、D領域の指導を得意とする教員はほとんどいなかった。しかしながら、学校教育において消費者教育を扱う教科は家庭科と社会科が中心であるため、生活のあらゆる場面を通じた消費者教育の検討が必要である。

小中高校での消費者教育を家庭科の学習目標に照らして考えると、単なる知識学習では具体性にかけ、さらには実感や価値観の変容を伴わないものになりがちである。筆者らはこれまで、中学校の衣生活分野に伝統的なものづくり体験を取り入れて、知識学習になりがちな衣服管理分野のアクティブ化[2]を試みたり、衣生活分野における生活情報の取り扱いから持続可能な消費のあり方[3]を提案したりしてきた。本研究では、「衣」生活の場面設定において、消費者問題を予防し、持続可能な消費者市民社会の構築を担う消費者育成を目指す点を強調したい。衣生活は食生活以上に外部化が著しく、流行といった消費者心理の移り変わり、価格競争による低価格化などが要因となり、環境との関わりが意識されにくいとい分野である。さらに、ICT社会における消費行動も視野に入れなくてはならない。なぜなら、インターネットショッピングでの利用率は若年層ほど高く、BtoCビジネスにおいて消費量が多いにもかかわらず、サイズやデザインの不一致といった失敗

[†] Kazuya SASAKI*, Tomoko AKATSUKA*, Megumi HOSHINO** and Hiromi KADOSAWA**:
Approach to Consumer Education through Regional Traditional Culture on Clothing Life

Keywords: clothing, traditional culture, consumer education, sustainability

* School of Education, Utsunomiya University

** Junior High School, Utsunomiya University

(連絡先:sasakika@cc.utsunomiya-u.ac.jp 佐々木和也)

事例が最も多い分野だからである。その反面、生活を「創る」という観点では、被服製作等の「ものづくり」体験に、LCAの観点や伝統文化の要素を加味することで、持続可能性を主体的・能動的に学ぶことができる可能性が高く、アクティブラーニングとしての消費者教育を推進できると考えている。

以下、本稿ではライフステージを考慮した衣生活領域における消費者教育の目標設定について述べ、これを踏まえて附属中学校で実践した内容について報告する。

2. ライフステージを見据えた衣生活領域の消費者教育の課題

消費者庁に設置された消費者教育推進のための体系的プログラム研究会（座長：西村隆男横浜国立大学教授）の検討成果として「消費者教育の体系イメージマップ」とその活用ガイドが平成25年に公表されている。本研究では表1に示すように、小中高等学校での実践や参考文献をもとに、このイメージマップに衣生活の場面を想定した消費者行動事例を策定し、発達段階における授業実践を行った。

表1 消費者市民社会に向けて消費者が身に付けたい力（衣生活編）

発達段階	分野	消費者がもつ影響力の理解	持続可能な消費の実践	消費者の参画・協働	衣生活
		自らの消費が環境、経済、社会及び文化等の幅広い分野において、他者に影響を及ぼし得るものであることを理解し、適切な商品やサービスを選択できる力	持続可能な社会の必要性に気づき、その実現に向けて多くの人々と協力して取り組むことができる力	消費者が、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、主体的に社会参画することの重要性を理解し、他者と協働して消費生活に関連する諸課題の解決のために行動できる力	衣生活の場面を想定した消費者行動事例
幼児期	様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に関心をもち、それを取り入れる時期	おこづかいや買い物に関心を持つ	身の回りのものを大切にしよう	協力することの大切さを知ろう	自分の衣服に関心を持つ
小学生期	主体的な行動、社会や環境への興味を通じて、消費者としての素地の形成が望まれる時期	消費をめぐる物と金銭の流れを考えよう	自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫しよう	身近な消費者問題に目を向けよう	靴下などの身につける小物を選択・管理しよう
中学生期	行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう	消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう	Tシャツなどのライフサイクリに関心を持つ
高校生期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考えよう	持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう	フェアトレードやエシカルを意識しよう
若者	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し自らの行動を始める時期	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考える習慣を身につけよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを探そう	消費者問題その他の社会課題の解決や、公正な社会の形成に向けた行動の場を広げよう	エシカルファッションをリードしよう
成人一般	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に、様々な人々と協働し取り組む時期	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響に配慮して行動しよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践しよう	地域や職場で協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう	衣生活の持続可能な消費を実践しよう
高齢者	周囲の支援を受けつつも、人生の豊富な経験や知識を消費者市民社会の構築に活かす時期	消費者の行動が環境、経済、社会に与える影響に配慮することの大切さを伝え合おう	持続可能な社会に役立つライフスタイルについて伝え合おう	支え合いながら協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくらう	衣生活の仕舞支度を意識して持続可能な消費をつなげよう

「消費者教育の体系イメージマップ～消費者力ステップアップのために～」の抜粋に加筆

衣生活領域の消費者教育を発達段階に応じて教材開発するためには、1) 衣生活をいつから自分で成り立たせているか、つまり衣生活の自立がいつから始まるかに大きく関係するため、その把握が重要であること、2) 衣服の消費は既成品の中から選択することが多いため、その衣服がどのように作製され手元に届き、身に着け、最後はどうなるのかという一連の衣服のライフサイクルへの理解を知識としてどのように押さえるのか、3) 購入時の知識は教材化しやすいが、管理・保存の知識・技術は実感を伴った教材になりにくいこと、4) ITの進展によるネットショッピングの普及により、身に纏うものでありながら、素材の安全性や繊維そのものの性質を知る機会をどう保障するのか、5) 授業時数が少ない中、製作の場面を想定できる教材が必要だがどうすればいいか、などの課題が抽出された。

3. 伝統文化を取り入れたエシカル消費の探求

附属中学校の技術・家庭科の家庭分野の年計では、衣生活領域は第1学年の秋季からの学習となる。小学生から中学生になったばかりの発達段階を考慮すれば、衣服の役割における社会的機能について実感を持って学ぶには課題が多い。そこで、民族衣装である和服を、一番馴染みのある浴衣と地域の文化である結城紬を通して、エシカルファッションの視点で持続可能な衣生活について考える授業を担当教員と協議のうえ構想した。本実践は、平成28年10月19日に第1学年全クラスを対象に、「エシカルファッションとしての和服」と題した特別授業として行った。当日は、女性用の結城紬を教室内に飾り、授業者が実際に結城紬を着用しての環境構成で授業を行った。授業の流れは以下の通りである。

(1) 導入「和服のカタチ？」

授業の導入として、生徒に知っている和服について問いかけてみた。多くは最も身近である浴衣、甚平、七五三の着物といった体験を通しての発話が見受けられた。

表2 和装の区分

性別	区分	種類
女	正装	黒留袖・色留袖・振袖・訪問着・喪服・付け下げ・袴
	平服	小紋・紬・浴衣など
男	正装	紋付・袴・お祝い（長着+羽織）
	平服	色無地・浴衣・作務衣・甚平・丹前・法被など

(2) グループワーク①「着物と浴衣の違い」

授業者が結城紬、TAが浴衣を着用し、グループでその違いについて話し合わせた。形（構成）は同じであること、襦袢の有無、ケア性に気づくことを意図したが、着用経験が少ないにもかかわらず、帯の違い（男女で異なる）や襦袢の有無、素材の違いなどを挙げる事ができた。



図1 授業者（結城紬）とTA（浴衣）の着姿

(3) 素材とユネスコ無形文化遺産のレクチャー

授業者の着用している結城紬について知っている生徒は名称も含めてほとんどいなかった。まずは、浴衣の主な素材である木綿と結城紬の真綿について歴史的な観点も踏まえて説明し、実際に手にとって体感させた。その後、結城紬の主な工程である真綿掛け、糸つむぎ、拵括り、地機織りについて映像教材で説明を行い、教室に飾った結城紬に使われた実際の拵糸を提示して、その手仕事の精緻さを体感させ、結城紬のもつ独特な風合いを生地見本を触ることで実感させた。初めて見る拵織りの世界に興味を示している様子が窺えた。



図2 手組糸（拵）を実際に触ってみる

(4) グループワーク②「着物の構成を知ろう」

和服は「一反(約12m)」の布を余すことなく使う平面構成法で作られる衣服である。そのため、洋服に比べれば、身丈や身幅も調整が可能であり、仕立て直しという概念が通常であり、かつては古くなった大人着を子ども用に作り替えたりする習慣があったことなどを伝えることで、授業の大きな目的である和服の環境配慮側面について気付かせることとした。



図3 女物着物の断ち切り例

次に、各グループに浴衣を配置し、和服の構造を畳むことを通して理解させた。全てのグループに女性物を用意したため、女性の着姿には図3の「おはしより」が現れることなどにも気づける生徒もいた。また、広げると大きな着物がコンパクトに畳めることで収納性の良さに気づくこともできたようであった。さらには、伝統的な日本家屋には収納スペースが少ないことなど、住生活領域などと連携させることで、伝統的な知恵について学ぶことも可能となる。



図4 浴衣の畳み方実習

以上を踏まえて、「和服の良いところ、悪いところ」をグループで話し合う活動を入れて、学習の振り返りをさせた。

(5) エシカルファッションとしての和服

最後に、授業のまとめとしてエシカル消費とエシカルファッションについて説明を行った。図5の上図に示すように、人・自然・社会の調和を目指す持続可能な消費スタイルが、これからの地球市民には必要であり、日本の基層文化としての「お互い様」の精神が重要であることについて述べた。この考え

方をファッションに適用したものがエシカルファッションである。人に優しい=フェアトレード、自然に優しい=オーガニック素材・天然素材の見直し、そして、各々の社会がもつ文化の尊重=地域の伝統文化の継承、これらの要素を大切にしたファッションの提案が世界のムーブメントとして起きていることを伝え、和服はとくに日本社会がもつ大切な文化であり、それらは環境配慮を思想として発展してきた衣服であるとメッセージを送った。



図5 エシカルファッション提示資料

参考文献

- [1] 岡野雅子, 大原朋美: 家庭科教育における消費者教育の現状と課題, 信州大学教育学部研究論集, Vol.5, pp.15-28, 2012
- [2] 山本志津子, 清水裕子, 佐々木和也: ものづくりの大切さを見つめ直した家庭科授業, 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, Vol.32, pp.289-294, 2009
- [3] 永山嘉恵, 佐々木和也, 赤塚朋子: 消費者の自立を促す中学校家庭科衣生活教材の開発, 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, Vol.37, pp.263-270, 2014

平成30年3月30日 受理

Approach to Consumer Education through Regional Traditional Culture on Clothing Life

Kazuya SASAKI, Tomoko AKATSUKA, Megumi HOSHINO and Hiromi KADOSAWA